

東南アジア・中国コーナー

福建省関係資料目録(2)

凡 例

- 1 本目録は、1986年度に東中コーナーおよび国際文化経済研究所に収められた、福建省関係の資料・文献の目録である。
- 2 分類は、当面の措置としての、便宜的なものである。
- 3 無印は東中コーナーの所蔵、(研)は研究所の所蔵を示す。
- 4 中国語部分の簡体字は、印刷の都合上、日本語漢字を用いた。

新聞・雑誌

福建日報

4面 55cm (研)

1986. 4. 1~

福建画報

《福建画報》編輯部 編 福州 福建人民出版社 33cm 月刊 (研)

1986年第4期(総第64期)~

海交史研究

《海交史研究》編輯部、中国海外交通史研究会 編 泉州 中国社会科学院歴史研究所宋遼金元史研究室、福建省泉州海外交通史博物館 26cm 年刊

泉州を主体に、中国各地の港の海外交通史関係の論文、資料紹介を中心とした学術誌。創刊は1978年。第二期より年刊。出版者は第一期が中国社会科学院歴史研究所宋遼金元史研究室、福建省泉州海外交通史博物館。第二期が中国海外交通史研究会、福建省泉州海外交通史博物館。第三期から中国海外交通史研究会、福建省社会科学研究所、福建省泉州海外交通史博物館。

第一期 1978. 12

第二期 1980

第三期 1981. 7

第四期 1982. 7

第五期 1983. 5

第六期 1984. 6

事 情

閩南三角地区及厦漳泉經濟開放区社会經濟概況

厦門市統計局、竜溪地区統計局、晋江地区統計局 編 1985. 8 254P 19cm (研)

閩南三角地区とは厦門、漳州、泉州の三市と同安、竜海、漳浦、東山、惠安、晋江、南安、安溪、永春の經濟開放県、および雲霄、詔安、平和、南靖、長泰、華安、徳化の各県を加えた地区をいう。三市と前九県は1985年2月に國務院によって經濟開放地区に認可された。本書には、經濟開放地区三市九県の概況説明と各種統

計資料が掲載してある。目次は次の通り。

- (一)社会経済概況部份
- (二)三角地区主要工、農業産品産量
- (三)三角地区優質産品及主要土特産品
- (四)三角地区外貿系統收購主要商品
- (五)主要歴史年份国民経済和社会統計主要指標

發展中の厦門經濟特區

厦門 1985. 3 8P 26cm (研)

厦門特別經濟地区の概況説明。次の「厦門經濟特區簡介」の基となったもの。本紙に訳文が掲載してある。

- 一、基本情况
- 二、投資環境和条件
- 三、今後の發展方向

厦門經濟特區簡介

厦門市經濟貿易委員會 編 1985. 11 14, 16 P 26cm (研)

中国政府の對外開放政策の一環として、1980年10月に認可された厦門特別經濟地区の概略が説明してある。中文英文併記。本紙に訳文が掲載してある。

- 前言
- 第一章 厦門市概況
- 第二章 新區開發
- 第三章 投資方式
- 第四章 投資保障
- 第五章 投資優惠
- 第六章 投資程序
- 第七章 投資方向
- 第八章 涉外機構介紹

一九八四年厦門市簡明統計資料

厦門市統計局 編 1985. 5 98P 9cm (研)

厦門市の国民経済に関する統計資料。統計表は39種類。中文英文併記。数値は1980年、1983年、1984年の3年分。80年から84年への成長率と、その間の年平均成長率、および83年から84年への成長率を記載。

厦門經濟特區法規滙編 第一輯

厦門市條法局 編 1985. 5 86P 22cm (研)

厦門特別經濟地区に関する法規集。中文英文

併記。収録されている法規は次の通り。

全國人民代表大會常務委員會關於授權廣東省、福建省人民代表大會及其常務委員會制定所屬經濟特區的各项單行經濟法規的決議 福建省人民代表大會常務委員會公告 厦門經濟特區企業登記管理規定 厦門經濟特區土地使用管理規定 厦門經濟特區勞動管理規定 厦門經濟特區技術引進規定 厦門經濟特區與內地經濟聯合的規定 中華人民共和國中外合資經營企業法 中華人民共和國中外合資經營企業法實施條例 中華人民共和國國務院關於經濟特區和沿海十四個港口城市減徵、免徵企業所得稅和工商統一稅的暫行規定 廣東省經濟特區條例

福州市外商投資洽談會——合資合作項目——

福州市外商投資洽談會組織委員會 福州 1986 68P 21cm (研)

1987年1月18日から同22日にかけて、福州市人民政府と《世界經濟導報》社の共催で、福州市において「外商投資洽談會」が開催された。これはその時に参加した福建省側の企業等のリスト。提携希望のプロジェクトは136件。

歴 史

福建史稿 上冊

朱維幹 著 福州 福建教育出版社 1985. 2 488P 図 21cm

福建の政治、経済、社会、文化、人物等全般に網羅した通史。上には上古より元代まで、下には明代から清代までを論述する。

- 第一章 福建歴史的開端
- 第二章 七閩及其鄰属
- 第三章 閩越的建国及北遷
- 第四章

閩中郡県の建置 第五章 中州人民入閩 第六章 晋至隋的閩中戦事 第七章 唐代的福建 第八章 五代的福建 第九章 宋代福建 社会経済的發展 第十章 麻沙書話 第十一章 宋代福建的農民起義 第十二章 宋末福建人民的抗元斗争 第十三章 元朝在福建的軍事与政治措施 第十四章 元代福建的社会経済 第十五章 元朝在福建的殘暴統治与元末福建農民起義 第十六章 元末蹂躪興泉的亦思法杭兵乱

泉州海外交通史料彙編

中国海外交通史研究会、福建省泉州海外交通史博物館 共編 1983. 8 376 P 19cm

本書は元来1959年から1964年にかけてガリ版出版された。内容も泉州の海外交通史関係を中心として、他の港町の海外交通史跡の調査、イスラム教を始めとする宗教の研究など多方面に渡っていたが、文革でその多くを散佚した。今回内容を泉州関係に限って出版の運びとなった。第一輯は史資料の採録、第二輯以降第九輯までは論文集である。次に第一輯の目次を挙げる。

泉州建置沿革 各朝代海外交通概況 市舶司的設置和活動 有閩海外交通的物産和貿易品 各種宗教活動及其遺跡 其他

泉州與我國中古的海上交通

李東華 著 台北 臺灣學生書局 1986. 1 310 P 図 21cm

本書には次の6つの問題点について、福建の内部要因としての経済社会の発展度、および中国と海外各地の交通貿易の状況などの観点より論述してある。

①地理的に不利な位置にある泉州が、なぜ対

外貿易港となり得たか。②福建の対外交通史上に与えた五代の政変の位置付け。③北宋以降における南海交通貿易の形勢の変遷。④宋元時代に泉州の海外交通が空前の繁栄を遂げた原因。⑤宋末に蒲寿庚が掘起した歴史的背景 ⑥明代に至って泉州の対外交通が衰えた原因。目次は次の通り。

第一章 唐末泉州的興起及其背景 第二章 五代北宋時期泉州海上交通之發展 第三章 南宋元代泉州對外交通の大盛 第四章 明代泉州之衰微 結論

閩台關係族譜資料選編

庄為璣、王連茂 編 福州 福建人民出版社 1984. 8 478 P 21cm

上下二編より成る。上編には「移民資料」として、福建より台湾に移住した一族の事蹟を記した族譜を、16の市県別に掲載。それぞれ台湾移住の時期、場所など編者の簡単な考証を付す。下編には「其他資料」として、福建・台湾の政治、経済、文化、宗教、婚姻関係の資料を掲載。

泉州回族譜牒資料選編

泉州市泉州歴史研究会 編 1980. 8 198 P 26cm

一定の地域にまとまって居住している少数民族の中にあつて、回族は寧夏、甘肅など国内各地に分散している。

泉州の回族には金、丁、夏、馬、葛の五大家族を始め、大きな勢力を持ち、泉州地方の発展に貢献した一族がある。本書にはこれら一族の族譜が掲載してある。

福州南宋黃昇墓

福建省博物館 編 北京 文物出版社 1982.

3 146, 4, 86 P 図 27cm

1975年10月、福州市の北約5キロの浮倉山で発見された、宋代の閩人黄昇の墓の発掘調査報告を主とす。内容は次の通り。

壹 墓葬的位置和地理環境 貳 墓室結構和葬具 參 随葬器物 肆 絲織品的種類和工藝技術 伍 絲織品的特点及產地問題 陸 宋代貴族婦女服飾的特点 柒 結語

先王実録校注 <八閩文献叢刊>

楊英 撰 陳碧笙 校注 福州 福建人民出版社 1981.12 260 P 図 21cm

鄭成功の事蹟に関する一級史料。鄭氏六科案巻をもとに、鄭成功軍に従軍した楊英自身の見聞を加えたもの。鄭成功軍の何回かに渡る戦役の状況を主として、鄭氏の書簡など多数掲載。もと1931年に中央研究院歴史語言研究所から史料叢刊として出版、当時は「延平王戸官楊英從征実録」といった。1961年に福建の安南県で別の抄本が発見された。これをもとに更に校訂を加えたのが本書。

鄭成功研究論文選 続集

鄭成功研究學術討論會學術組 編 福州 福建人民出版社 1984.10 340 P 21cm

1982年7月廈門において、鄭成功の台湾奪回320周年を記念して、鄭成功研究學術討論會が開催された。本書には当学会で発表されたものの中から、鄭成功の事蹟に関する論文を中心に27編を収める。

語 学

普通話閩南方言詞典

廈門大学 中国語言文学 研究所 漢語 方言研究室

編 香港、福州 生活・讀書・新知三联書店香港分店、福建人民出版社 1982.10 1096, 214 P 27cm

レコード 高佩琳、洪純吉 朗読 第一面 一、漢語拼音方案 字母、声母、韵母、声調 二、閩南方言拼音方案 字母、声母 第二面 二、閩南方言拼音方案 韵母、声調 4'15", 5'18" 普通話5万余語、閩南語約7万語の発音対照辞典。発音表記は普通話が漢語拼音方案、閩南語が閩南方言拼音方案による。排列は普通話の拼音順。閩南語は廈門語を主とし、若干の泉州語と漳州語を収録。

閩音研究

陶燠民 著 北京 科学出版社 1956.5 28 P 26cm

本書でいう閩語とは、福州市内で話されている福州語を指す。内容は次の通り。

○ 序説 一 閩語之韻紐 二 閩語之聲調 三 閩語羅馬字 四 聲母之類化 五 聲調之轉變 六 閩音與古音之比較 七 國音與閩音之比較 八 附錄：各種瘦語之構成

文 学

烏塔与白塔 <福建民間文学叢書>

中国民間文芸研究会福建分会 編 福州 福建人民出版社 1983.7 192 P 19cm

1982年の夏、福州市文学藝術界联合会が中心となって、福州に伝わる民間の伝説を搜集した。その数は百余編。本書にはその中から35編を選び「風物伝説」11編、「人物故事」11編、「街坊掌故」5編、「俗語典故」6編、「榕城民俗」2編を収録。白塔と烏塔は福州市内にある

史跡で、「榕城双塔」（“城榕”は福州のこと）と併称されている。

廬隱選集 上冊

錢虹 編 福州 福建人民出版社 1985. 5
610 P 肖像 21cm

廬隱、本名は黄英。福建閩侯県の人。1898年5月4日生。五四時期に謝冰心とともに注目を集めた女流作家。北京国立女子高等師範学校に国文の第一期生として入学。当時北京で成立した文学研究会の成立大会（1921年）に参加した唯一の女性。1934年5月36歳の若さで死す。収録作品は次の通り。

第一輯 論文・雑文 24編 第二輯 詩・劇本 10編 第三輯 短編小説 35編 第四輯 書信・自伝 2編

閩居紀程 <福建文学創作叢書>

何為 著 福州 福建人民出版社 1982. 10
214 P 19cm

何為、本名は何振業。1922年生、浙江の人。1959年福建の映画製作所設立準備のために赴任、編集委員を務める。以後福建に留まり創作活動を続け《福建文芸》の編集・指導をする。1977年福建省第五期人民代表大会の代表に選出される。現在は中国作家協会福建分会副主席。本書は福建滞在20数年間に、福建を題材として発表した散文集。第一輯には1959年から1965年までの9編、第二輯には1976年から1981年までの17編を収める。

教 育

福建高等学校

黄印春、方彦富 編 福州 福建省高等教育庁

辦公室 1984.12 102 P 19cm (研)

福建省内に設置されている高等教育機関の校史、規模、設置学科などを紹介してある。本書に使用されている統計資料は、1984年8月現在のものである。内容は次の通り。

- 一、全日制普通高等学校 大学4 学院6 専科学校12
- 二、全日制高等職業学校 職業大学6
- 三、管理幹部学院 学院2
- 四、広播電視大学 大学1

福州大学

福州大学校長辦公室 編 1986. 5 40 P 図
19cm (研)

福州大学のパンフレット。福州大学は1958年に創設された理工系の大学であるが、最近財經学院や外国語系が新設されている。本書によれば、現在当大学には学院1、系16、研究所1、研究室7がある。

体 育

虎形拳 <福建南拳叢書>

魏齊祺、胡金煥、孫崇雄 共著 福州 福建人民出版社 1985. 8 250 P 図 19cm

南派少林拳には竜形拳、虎形拳、豹形拳、蛇形拳、鶴形拳の五種がある。虎形拳は福建をはじめ浙江、江西、広東、香港、マカオ、日本、東南アジア各地で広く行われている。手工業労働者や農民の間に秘伝として伝わっていたものを、福建省武術協会の指導のもとに、組織的に調査を進め、整理をしたのが本書。付録に「日本国上地流空手道来榕尋祖始末」を載せる。

地 理

中国名勝詞典 福建、台湾分冊

福建省文物管理委員会 編 上海 上海辞書出版社 1981.12 68 P 図 19cm

福建省および台湾省にある名勝旧跡を、それぞれ市県別に紹介。福建部分は54ページ。国家文物事業管理局主編の「中国名勝詞典」から福建台湾部分を分冊にしたもの。

薬 学

福建薬物誌 第一冊

福建省医薬研究所 編 福州 福建人民出版社 1979. 9 558 P 図 26cm

福建省内に自生する薬用植物と栽培用の薬用植物計500種を掲載。それぞれ図の外、名称(中国名、学術名、中国地方名)、形態特徴、生境分布、薬用部分、采收加工、性味功能、主治、用法、附方、参考資料、附注を記載。

料 理

福建菜譜・福州・

福州市飲食公司 編 福州 福建科学技術出版社 1980. 3 292 P 図 19cm

福建菜譜・厦門・

厦門市飲食業公司 編 福州 福建科学出版社 1980. 2 229 P 図 19cm

福建料理は“閩菜”といい中国八大料理の一つで、福州料理と厦門料理がその代表格。福州料理は福州と近郊の10県、および閩北、閩東、閩中に広く普及している。厦門料理は閩南風味を主として台湾、汕頭の風味をそなえている。本書には福州料理268種、厦門料理233種について、その材料、作り方、特徴が述べてある。本書作成に当っては、福州、厦門の一流のコックと料理専門家により一つ一つの料理についてグループによる試作審査が行われている。現在最も完備した福建料理参考書。

(秦耕司記)